

(特定非営利活動法人 青森ITSクラブ)**1. 背景**

青森県は本州の最北端に位置している。世界遺産である白神山、日本最大級の縄文遺跡（4000年以上前）である三内丸山遺跡、お城と林檎と日本一の桜祭りで有名な弘前城址、下北半島や津軽半島など観光資源に恵まれた地域である。2016年3月26日には新幹線も全線開通し、広域交通ネットワークに組み込まれた。

しかしながら、県庁所在都市では全国で唯一特別豪雪地帯に指定されている日本有数の豪雪地帯である。そのため、雪国特有の問題である吹雪や視界不良による交通障害への対応、生活交通を確保するための除排雪や歩行者の安全確保、そして新幹線からの乗り換え二次交通の確保など固有の課題が多く、これらを解決するために地域の知恵と工夫が求められている。

2. 取組内容

青森ではNPO法人の「青森ITSクラブ」が中心となり地域のITS推進を行っている点が大きな特徴である。ITSを進めるにあたっては、道路管理者（国・県・市）、交通警察（県）、交通事業者（鉄道・バス等）、市民、情報通信会社（多数）など関係者が多岐にわたるため、ITSの対策がまとまりにくいこと、ユーザー目線で見ると情報がばらばらに提供されること、官民の連携が取りにくいことなどの課題が指摘されている。

雪という大きな交通障害に対するためには、ITの進歩へのキャッチアップ、行政組織の縦割りの克服、官民の連携、市民目線での使いやすさを中心にITSを導入していくためにNPOが中心となって展開していくこととした点が青森ITSの特徴である。

①青森みち情報

「青森みち情報」は、行政（国土交通省青森河川国道事務所・青森県）と民間（NPO法人青森ITSクラブ）等が、道路利用者視線に立つことを心がけて青森県内の道路交通情報を提供している全国的にも珍しい官民協働による取り組みである。道路利用者が必要とする詳細な情報をわかりやすく提供するため、地元行政機関による情報収集と民間の知恵・工夫と行動力を活用し官民連携で構築した、新しい試みとなる道路交通情報ポータルサイトとして、2002年7月より情報提供している。

②青森市除排雪情報（除排雪車両管理システム）

効率的で効果的な除排雪を行うためにGPS車載装置とデジタル地図を活用したシステムをNPO法人青森ITSクラブが開発し、2006年2月より市道一部区間、2008年2月よ

り国道一部区間、2008年12月より県道一部区間に導入され、青森市内における主要道路の除排雪管理に使われている。また、市民が生活情報として必要としている除排雪情報を一元化し「青森市除排雪情報」としてWebサイトで情報提供している。道路管理者の枠組みを超え、集約された除排雪情報を提供しているのは日本でも青森だけである。

③あおもり防災情報

東日本大震災を契機に、地震・台風・大雪などによる災害情報や、それらに伴う公共交通機関の運行情報など、災害・防災情報の集約化を図ったプラットフォーム「あおもり防災情報」の構築を全国に先駆けて行った。自治体・マスコミや公共交通機関等が発信する災害RSS情報やTwitter情報を元に、パソコン・携帯電話・スマートフォン・ITSスポット対応カーナビなど多様な媒体に向けて2011年12月より情報提供している。

④あおもり交通情報

公共交通情報と道路交通情報等を一元化したマルチモーダル情報をパソコン・携帯電話・スマートフォンの各種情報端末へわかりやすく情報提供する「あおもり交通情報」を構築し、青森県内の鉄道・航空・フェリー・バスなど各公共交通機関の運休や遅れに関する情報、冬期道路の規制状況、天気や防災情報などを2013年12月より情報提供している。また、全国初の取り組みとして、「あおもり交通情報」に載っている青森県内の交通機関の運行情報を総合的に判断し、交通シビアリティ指標（LEVEL0～LEVEL5の6段階で表示）として、市民・観光客へ情報提供している。

3. 期待される効果

日本では、20年間のデフレ経済の中で、行政の支出削減が大きな課題となっており、これまで行政に頼りきりであった公の仕事を行行政だけではなく市民や民間も参加した「新しい公共」の模索が行われている。

青森のアプローチは省庁間の壁を越え、多数の行政の情報をNPOが集約し、市民のニーズに合った情報として提供する仕組みを構築するという点で国家レベルでのチャレンジである。

また、地域の課題に対しITSを活用し利便性や安全面の向上を図るだけでなく、市民ニーズの視点から枠組みや仕組みを考えてITSを活用したイノベーションを起こそうという取り組みである。

ビジョンの実現に向けたサステイナブルな地域のまちづくりへの効果はもとより、「新しい社会システム」の実現にもつながる効果が期待される。